

|                               |  |      |      |               |              |      |
|-------------------------------|--|------|------|---------------|--------------|------|
| 授業科目名                         | 日本語表現  | 教員名  | 松元雅子 | 免許・資格<br>との関係 | 小学校教諭        |      |
|                               |  |      |      |               | 幼稚園教諭        |      |
| 授業形態                          | 講義   | 担当形態 | 単独   |               | 保育士          | 選択必修 |
|                               |  |      |      |               | こども音楽療<br>育士 |      |
| 科目番号                          | JIN105   | 配当年次 | 1年前期 | 卒業要件          | 小幼コース        | 選択必修 |
| 単位数                           | 2単位  |      |      |               | 幼保コース        | 選択必修 |
| 科目                            |  |      |      |               |              |      |
| 施行規則に<br>定める科目区<br>分<br>又は事項等 |  |      |      |               |              |      |
| 科目                            | 教養科目 (保育士)   |      |      |               |              |      |
| 系列                            |  |      |      |               |              |      |
| 到達目標                          | <p>(1) 話題や題材に応じて、情報を分析しつつ、自分の考えを深めることができる。</p> <p>(2) 相手の立場や自分とは異なる考えを尊重し、討論の中で、論拠の妥当性を判断できる。</p> <p>(3) 論理の構成や描写の仕方などを工夫して表現できる。</p> <p>(4) 日本語におけるさまざまな表現法を習得し、効果的に話したり書いたりできる。</p> <p>(5) 読書の幅を広げ、読書に親しむ態度を涵養する。</p> <p>(6) 言語文化に対する関心を持ち、それらを尊重しつつ視野を広げる。</p>  |      |      |               |              |      |
| 授業の概要                         | <p>価値観の多様化する現代において、言語環境は大きく変容しているが、その中において、論理的に思考する力、豊かな発想のもととなる創造力、またそれを表現する能力が必要不可欠となっている。本授業では、日本語で適切かつ効果的に表現する能力の育成をめざし、言語感覚を磨くとともに、ディスカッションやディベートを通して相互理解を深めることを目標とする。内容は、短歌の創作や詩の鑑賞、読書活動推進のためのビブリオバトル、文章の書き方講座などである。単元ごとに、創作、相互評価（ディスカッション）、自己評価（レポート）といった言語活動を行う中で、日本語に対する興味・関心を高め、表現することの意義を考えさせる。</p>   |      |      |               |              |      |
| ディプロマ・<br>ポリシーとの<br>関係        | <p>本講義は、教育学部のディプロマ・ポリシーに掲げる「1. 社会・教育等に関連する国内外の様々な問題について、現状・課題を認識し、その解決策を考察できる能力を身につけている。」「3. 教育者として、持つべき十分な記述力・プレゼンテーション能力・コミュニケーション能力を身につけている。」を育成する科目として配置している。</p>  |      |      |               |              |      |
| 授業計画                          | <p>第1回：授業概要説明 「表現」の意義について</p> <p>第2回：短歌の鑑賞および創作活動</p> <p>第3回：詩のことば・現代詩の鑑賞</p> <p>第4回：自作の短歌作品についてのディスカッション（歌会形式）</p> <p>第5回：短歌ディベート（チーム戦）の概要説明と創作活動、ディベート準備</p> <p>第6回：短歌ディベートおよび相互評価①</p> <p>第7回：短歌ディベートおよび相互評価②</p> <p>第8回：読書の意義およびビブリオバトルの概要説明</p> <p>第9回：ビブリオバトル実践およびディスカッション①</p> <p>第10回：ビブリオバトル実践およびディスカッション②</p> <p>第11回：日本語表現に関する基礎演習</p> <p>第12回：文書講座①文章要約問題および相互評価</p> <p>第13回：文章講座②小論文の書き方および相互評価</p> <p>第14回：文章講座③エッセイの書き方と実践</p> <p>第15回：文章講座④エッセイの相互評価、発表</p> <p>「日本語表現」に関するまとめ 「表現」の意義について</p> <p>定期試験：日本語表現に関する小論文</p> |      |      |               |              |      |
| 学生に対する<br>評価                  | <p>期末試験（40%）、レポート（35%）、発表の内容（25%）を総合して評価する。なお、レポート・答案等の提出物へのフィードバックについては以下の方法等による。</p>   |      |      |               |              |      |

|             |  |
|-------------|--|
|             | <ul style="list-style-type: none"> <li>・コメントを記載して返却する。</li> <li>・授業またはオフィスアワーに、口頭で行う。</li> <li>・答案例を配布する。</li> </ul> |
| 授業外学習について   | 講義における創作課題については、必ず指定された日までに提出すること。また、ディベートや発表準備を周到に行うこと。事後学習として、单元ごとに課されるレポートを提出すること。                                |
| テキスト        | 授業時に適宜プリントを配布する。   |
| 参考書・参考資料等   | 授業の中で適宜紹介する。   |
| 担当者からのメッセージ | 特になし   |
| オフィスアワー     | 授業の前後の時間その他、メール等によりアポイントを取る。   |